

浜通りへ行くな、ここがオススメ!

今回の見学会で伺った、福島県浜通りにある2つの施設を紹介します。

お食事

レストランエフ

「東日本大震災・原子力災害伝承館」に隣接する「双葉町産業交流センター」の2階にあるレストラン。お店オリジナルの「ふたば丼」の他、さまざまなランチメニューがあります。

今回いただいたのは「ふたば丼・海」。請戸産ヒラメを使った漬け丼で、身がとて柔らかく上品な味。魚卵ときざみ海苔との相性も抜群でした。

ドリンクバーが設置され、お好みのドリンクが2杯サービスになっていることも魅力。窓の外に広がる太平洋の眺望が素晴らしく、オススメです。



●〒979-1401 福島県双葉郡双葉町
大字高田1番地1 双葉町産業交流センター2階
●TEL.0240-25-8333
●URL: <https://www.f-bicc.jp/eat/>

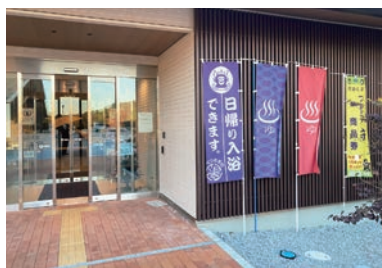
宿泊

ほっと大熊

大熊町大川原地区にある、宿泊と日帰り入浴ができる複合施設。平屋建てで、館内の段差が少ないことに驚きました。

洋室、バリアフリールーム、団体和室があり、のんびりと快適に過ごすことができます。大浴場で旅の疲れをいやすことができるのも見逃せません。

お食事やお買い物ができる商業施設「おおくまーと」や交流施設「linkる大熊」に隣接しています。ご家族やご友人と利用されてはいかがでしょうか。



●〒979-1306 福島県双葉郡大熊町
大川原南平1207-1
●TEL.0240-23-5767
●URL: <https://okumakouryu.jp/hotokuma/>



お耳を拝借

食の境界線 天津飯の“あん”の不思議

「天津飯」は町の中華料理店でもポピュラーな料理ですが、実は日本生まれなのをご存じですか? 中華人民共和国の天津市のみならず、中国大陸にこれに相当する料理は存在しないようです。天津飯の発祥は諸説ありますが、戦後の食糧難の時代、カニの身を卵に混ぜて炒め、ご飯にのせて食べたことが始まりといわれているようです。

関西出身の筆者が天津飯を東京で初めて食した際、その赤い色にビックリしました。実は地域によって「あん」が違うのです。関東では一般的にケチャップを使った甘酢あんがおなじみ。しかし、関西ではあっさりとした醤油あんが主流です。同じく関西では鶏ガラスープに塩を加えた塩味あんの天津飯も人気があります。

某人気テレビ番組の調査によると、甘酢あんと醤油あんの境界線は浜名湖辺りにあるとか。それぞれのあんを作り、食べ比べてみるのも楽しいかもしれませんね。



編集後記

本号では、2022年度見学会の様態をお届けしました。コロナ禍により、JAIF地域ネットワークのメンバーが直接会うのは3年ぶり。バス乗車直後から同窓会のような和やかな雰囲気です。

初日は、移動中に大熊町商工会の蜂須賀禮子会長が大熊町の現状を報告。「復興はまだ途上。この見学会を通じて不便さを感じてほしい」とのお話が印象的でした。福島第一原子力発電所や廃炉資料館の見学では、燃料デブリの取り出しや汚染水処理などへの対応状況を伺い、課題があるものの着実に進捗しており、現場環境がかなり改善していることを肌で感じることができました。

翌日は、原子力発電所が立地する町職員の方々との意見交換を行い、復興とは何かを改めて考えさせられました。2日間とも好天に恵まれた穏やかな日でしたが、ここが未曾有の災害に遭ったことを東日本大震災・原子力災害伝承館で目の当たりにし、そのギャップに驚かされました。

22年7月よりJAIF地域ネットワークの担当となりました。今後も皆さまの活動に役立つ内容を目指してまいりますので、ご意見などぜひお寄せください。よろしくお願いいたします。(teru)

JAIF Regional Network TIMES

人をつなぐ・地域をつなぐーいっしょに明日の原子力を考える

2023年2月 Vol.

11

見て聴いて知る、福島2022 福島第一原子力発電所、廃炉資料館、東日本大震災・原子力災害伝承館を巡る



① JR郡山駅



② 福島第一原子力発電所(提供:東京電力HD(株))



③ 廃炉資料館(外壁工事中)



④ 廃炉資料館(館内)



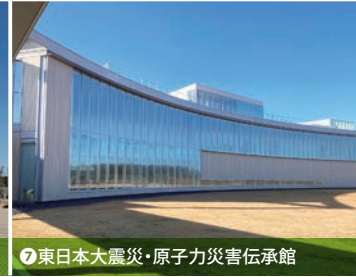
⑤ 宿泊温浴施設「ほっと大熊」



⑥ 交流施設「linkる大熊」



⑦ 双葉町産業交流センター



⑧ 東日本大震災・原子力災害伝承館



⑨ 東日本大震災・原子力災害伝承館

JAIF地域ネットワーク 2022年度見学会 概要

JAIF地域ネットワークは、下記の日程で見学会を実施。全国から11名の方が参加されました。また、意見交換会には原子力発電所が立地・隣接する町のご担当者に参加していただきました。ちなみに、福島での見学会は2017年11月6～8日以来です。

●1日目:11月24日(木)

① JR郡山駅に集合・出発 → (バスで移動) → ② 東京電力ホールディングス(株)「福島第一原子力発電所」見学 → ③ 東京電力ホールディングス(株)「廃炉資料館」見学 → (バスで移動) → ④ ほっと大熊(大熊町)宿泊

●2日目:11月25日(金)

ほっと大熊 → (施設内移動) → ⑤ linkる大熊「発電所所在町職員との意見交換会」→ (バスで移動) → ⑥ 双葉町産業交流センター → ⑦ 「東日本大震災・原子力災害伝承館」見学 → (バスで移動) → JR郡山駅着・解散



Tour 1 福島第一原子力発電所

肌で感じた廃炉への取り組み

東京電力ホールディングス(株)から、事故直後と比較して作業環境が改善され、福島第一原子力発電所の廃炉作業が計画的に進められているとの紹介があり、参加者は防護装備を着け、ことなく線量計を携帯した上で発電所構内に入りました。発電所構内はバスで移動し、車窓から多核種除去設備(ALPS)や汚染水浄化に使用したフィルター、免震重要棟、旧事務本館、サブドレン浄化設備、津波により変形したタンク、海洋放出設備工事現場、事故を回避した5・6号機などを見学しました。

1〜4号機の建屋を俯瞰できる海拔35mの高台でバスを降車し、水素爆発により損傷した原子炉建屋を眺めながら、号機ごとそれぞれの状況に応じた工夫を施した上での使用済み燃料取り出しの実施状況について説明を受けました(1・2号機:燃料取り出し準備作業中、3・4号機:燃料取り出し完了)。

また、汚染水増加の原因となる地下水流入を抑制するため、雨水が浸み込まないように地表面をモルタルで覆っていること、建屋近傍に設置した45カ所の井戸(サブドレン設備)により地下水を汲み上げていること、1〜4号機を囲むように全長約1.5kmの氷の壁(凍土遮水壁)を地中に設置しているとの説明を受けました。

汚染水に含まれる主要な放射性物質であるセシウムとストロンチウムについて、環境放出する場合の国の規制基準値に対する浄化処理前後の放射性物質濃度の値が示され、ALPSによる浄化処理により測定器で検出できないほど濃度が低くなっていること、汚染水はトリチウム以外の大部分の放射性物質が取り除かれた処理水としてタンクに保管されているとの説明を受けました。

参加者からは、「汚染水の環境への影響について研究は実施しているのか」「原子炉建屋から搬出し乾式貯蔵施設に保管中の燃料はどのように処理するのか」などの質問や「作業員の休憩施設が完成したこともあり、以前(2012年12月頃)よりも現場は落ち着いてきたという印象を持った」などの発言がありました。



空間線量表示
(提供:東京電力HD(株))



原子炉建屋を眺めながら号機ごとの使用済み燃料の取り出し状況を見る
(提供:東京電力HD(株))

見学会

見学会の初日は、東京電力ホールディングス(株)の「福島第一原子力発電所」と「廃炉資料館」を3時間、そして2日目は2020年9月に開館した「東日本大震災・原子力災害伝承館」を1時間30分かけて見学しました。

Tour 2 廃炉資料館

原子力事故の記憶と記録を残し、反省と教訓を学ぶ

「東京電力廃炉資料館」では、高澤智行館長が「福島第一原子力発電所ではさまざまな業種の人々が働いており、廃炉に向けた作業を日々、着実に進めている」「ALPSで浄化した処理水について正確な情報をいち早く伝え、広く社会の皆さんにご理解をいただけるよう努めていく」と説明。また、燃料デブリの取り出し作業について、原子炉建屋内を調査するためのロボットによる作業状況を映像で見学しました。



高澤智行館長から説明を聞く参加者



燃料デブリの状態を映像で見学

さらに、廃炉作業で発生した廃棄物の処理・保管施設や、放射性物質によるリスクを低減する労働環境改善への取り組みも紹介され、国内外の英知を結集した廃炉作業における技術開発や研究施設について説明を受けました。



4,000人以上が廃炉作業に従事

Tour 3 東日本大震災・原子力災害伝承館

あの日からの経験・未来への教訓を知る・学ぶ

「東日本大震災・原子力災害伝承館」は、未曾有の複合災害を経験し、復興への途を歩んできた福島の記録と記憶を防災・減災の教訓として未来へつないでいくことを目的に、2020年9月に開館した施設です。

まず、直径10m、高さ7mの円柱形状のシアタールームにおいて、地震・津波・原子力事故発生直後からの住民避難状況や復興・廃炉の状況について、当時の映像やアニメーションを交えた上映があり、「災害の自分事化」と「福島の経験と教訓の未来への継承」が語られました。その後、原子力災害を中心とした展示、困難を乗り越え復興に挑戦する福島県の力強い姿などが紹介されました。



回廊に展示された年表



福島第一原子力発電所の模型



館内の展示物を見学

Presentation



町の担当者が語る 大熊町・富岡町・楢葉町・双葉町のいま、これから



大熊町役場
環境対策課 主査
荒木紀幸さん

町全体の約半分が帰還困難区域。住基上の人口は約1万人だが、実際の居住は約900名と推計される。

稲作や日本酒造りによる営農再開や、太陽光利用型植物工場でのいちご栽培といった挑戦も始まっている。

また、2019年5月に本庁舎機能を移動した大川原地区の他、4拠点において産業誘致と新産業の創出に取り組む。

20年5月には「2050ゼロカーボン宣言」を発出し、復興の軸としている。

ゼロカーボンを町復興の軸に



富岡町役場
生活環境課 消防交通係長
兼 原子力事故対策係長
鎌田祐輔さん

2017年4月、帰還困難区域を除き避難指示を解除し帰町を開始。帰還困難区域のうち特定復興再生拠点区域については、23年春の避難指示解除を目指して各種事業に着手している。

富岡産業団地の整備と企業誘致により雇用を創出するとともに、新規就農者の育成も含め農業復活にもチャレンジしていく。

暮らしの確保という点では将来の移住定住につながる交流人口の拡大やお試し住宅の運営を行っている。

将来移住に向けてお話しし住宅を運営



楢葉町役場
くらし安全対策課 課長補佐
兼 防災交通係長
松本忠幸さん

2015年の避難指示解除後、小中学校・こども園の再開や「ここなら商店街」「ならはスカイアリーナ」のオープン、ヴィレッジ駅新設など、復興に向けた取り組みを着実に進めてきた。

今後は、産業再生エリア、竜田駅東側エリア、笑みふるタウンならはを中心とした新たなまちづくり、ならびに農業再生やスポーツ振興、移住・定住・交流人口の拡大など、真の「創生」に向け歩んでいく。

創生に向けて始まる新たな挑戦



双葉町役場
住民生活課 副主査
比佐和寛さん

2020年3月に避難指示解除準備区域等(町の4%)、22年8月に特定復興再生拠点区域(町の11%)の避難指示を解除。震災から約11年5カ月ぶりに町内での居住が可能となった。

双葉駅前に町役場新庁舎が完成し、駅西側には復興公営住宅・再生住宅を整備。町の復興の先駆けとなる解除区域では「なりわいの再生」を目指し、営農再開や企業誘致活動を進めている。

なりわいの再生を目指して

※比佐さんは公務による欠席のため、JAIFが代理説明。

Study tour & Discussion

2日目に開催された意見交換会では、まず4町の東日本大震災後の取り組みや課題をご紹介いただきました。その後、参加された皆さんとの間で意見が交わされました。その一部をQ&A形式でご紹介します。



質疑応答・意見交換

Discussion



- Q1 各町で一番の課題となっていることは?
- A1 ●復興や帰還を進めてきたが、今後は今の人口でどう町を運営していくか、住みよい町づくりをしていくかという方向に切り替えていく必要があると考えている。
- 空き地の雑草が敷地内に侵入し、宅地の環境が保たれないという苦情が多く寄せられ、身近な課題となっている。
- 作業員の宿舍の確保、ならびに町内のコンビニエンスストアの閉店時間が早いこと。
- Q2 風評被害についてどのように思われているのか?

- A2 ●これを行えば風評被害がなくなることではないが、地道な活動や応援してくださる皆さんの声が力になる。
- 地道な活動が風評被害の払拭に向けた動きになるので、引き続き長い目で見守ってほしい。
- Q3 震災後、住民の原子力発電に対する意識はどうなっているのか教えてほしい。
- A3 ●震災前まで町の産業が原子力に頼っていたこ

ともあるが、地元以外の発電所の再稼働でも町民には複雑な思いがあると思う。

●雇用などで原子力発電所の恩恵を受けてきたこともあるが、感覚的には理解していただいている方と一切NGの方の二極化が進んでいると思う。発電所の状況を知ってほしいと町でツアーを企画したが、参加者が集まらなかった。

●住民からはこれまでにいろいろな意見があったが、賛成の方もい

れば反対の方もいる状況であり、町では廃炉を優先に考えている。

Q4 全国にいる私たち「JAIF地域ネットワーク」に望むことは?

A4 ●正直、課題は多く、復興も半ばであり、避難されている方からの不安の声も多いので、セミナーなどの人的支援や企業からの事業提案などをいただければと思っている。

●原子力防災について安全確保に万全を期してほしい。災害を風化させるのではなく、双葉郡のことを忘れず、定期的に訪問していただきたい。

●定期的に訪問して、皆さんの地元で私たち自治体職員の話伝えてほしい。原子力防災についても常に考えていただきたい。



参加された11名の方々